

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人華頂学園 華頂幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・人を思いやる心を育てる。
- ・いろいろな経験を通して、自分で行動する力をつける。
- ・健康でたくましい身体を養う。

2. 学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自分を見る目を養い、施設の改善、教育と保育内容の改善に主体的にとりこんでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価内容
I. 保育内容と計画	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が毎日楽しんで幼稚園に来て、基本的な生活習慣が身に着くよう、まずは保育者が手本を見せて一緒にやってみる経験を大切にできるよう、保育計画を立てるようにした。 ・各学期の生活記録はあるが、日々の成長についての記録はないので記録をのこしていきたいと思う。 ・生活記録や日々の反省会ノート、カリキュラムを見返しながら子ども達にどう成長してほしいか、どんなクラスにしていくかを常に考えながら保育計画を立てていた。 ・保育計画をたてる時に「子どもに育てほしい10の姿」を踏まえてられていなかった。 ・年度初めに職員全体で今年はどうな子ども達に育てたいのかを園の方針に沿って話し合えると更によくできたのではないか。 ・職員間で密に連携を取り、子ども達の実態にあった保育ができた。
II. 保育の在り方 子どもの接し方	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで保育をしてきた中で一番子ども達の姿に寄り添い共感しながら日々を積み重ねてこられた1年間だと感じている。行事先は余裕がなくなってしまう、細やかな配慮が不足しているのではないかと心配だった。子ども達を認め、褒める場面がたくさんあり、仕事のやりがいや幸福感を感じ子ども達の成長が嬉しかった。 ・一人一人の発達の特性をこの一年で理解できるようになっていき、その子に応じた対応の仕方を都度考えて対応した。 ・特別支援担当職員の存在が大きかった。今まで支援がいる子たちにどのように関わっていけばいいか悩んでいたが、方法やアドバイスを頂けるので自分自身も寄り添っていくことが出来たと思う。 ・保育の反省を次の保育に活かしていくことができていなかったように感じる。 ・子どもとたくさん会話をしながら今どんな気持ちか、何が好きか、何に困っているのか探りながら関わることを意識した。 ・歌を教えるときに、子ども達が歌詞の意味を理解できるようにパープサート等を用意してもらっていたので、自分たちでも準備していく。 ・身の回りのことを全て手伝うのではなく、「自分でできた」自信や達成感を味わいながら子どもが自分で考えて行動できるように一人一人に応じて援助するように心がけていた。 ・保育ではみんなで同じものを作ることが多かったので、子どもの発想を大切に自由に表現することも大切に保育の準備をしていきたい。
III. 環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナー設定も教材を含め、各クラス子どもたちが動きやすい環境づくりの工夫が必要だと感じた。 ・行事ごとの製作では作ることが目標になっていたため、持ち帰る前に部屋に飾るなど、季節を感じられる環境構成をしないといけなかった。 ・子ども達が遊びたい玩具や塗り絵を自由時間によく配置していたが遊びつくしてマンネリ化していることもあったので、新しい教材や玩具を作りたい。 ・室内では壊れた玩具が無いかよく確認をしているが、戸外は猫の糞があることを子ども達から教えてもらうことが多かったため、職員同士で状況を確認して清潔な環境の中で遊べるように取り組みたい。 ・室内遊びの中で机上遊びが少なく落ち着きをもって遊べないことがあったため、知育遊びや集中して遊びこめるものを用意していくことが来年度の課題。 ・季節を感じられる場面が少なかったように感じた。戸外に積極的にでかけ自然を観察し、季節の感じられる制作と導入をしっかりとしていきたい。
IV. 教職員相互の協力・連携・役割	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の反省会で情報を共有できてよかった。お互いに意見を伝え合える環境で保育を行うことができた。 ・行事などで誰が聞いていて誰が聞いていないという場面が多々あったと感じたので行事への思いや考え方が一致していない時があるのもっと共有して理解を深めれば良いと思う。 ・疑問があるときはそのままにせず、きくことをこれからも大切にしていきたい。 ・相談や困ったことなど反省会の中で先生たちと情報を交換しながら伝えることができた。 ・支援児のクラス担任としっかり連携をとり、対応の仕方を考えていった。
V. 研修・資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自主研修や特別支援に関わる講習など積極的に受講した。その内容等を他の職員に十分に伝えることができなかった。 ・積極的に研修に参加できたが、自ら研修を申し込むことはなかったため、気になる研修があれば率先して参加をし、日々の保育に活かせるようにしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で受けたことを見直すことができていなかった。研修報告などの時間がとれれば他の先生たちが受けている内容を共有できたと思う。 ・研修の内容をまとめたり見直したりすることができなかった。 ・後半は研修や勉強をする余裕がなかったが受講した研修は日々へ活かすことができている。
VI家庭支援 ・ 安全衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ・直接お会いする機会が少ない人とお迎えに来る際にお会いして話せる人との差があるので、参観日に話をすることを意識していた。 ・教室の整理整頓を日々心掛けているが、換気が少なかった。手洗いうがいについても定期的に伝えるようにする。 ・支援がいる子や気持ちのコントロールがうまくできない子の様子を伝えることが多くなってしまい、よかったことできたことを伝えられていないと思い、3学期から改善していった。 ・今年度から本堂の経路を使った避難訓練を取り入れ、様々な状況に応じた訓練をすることができた。 ・保護者の方とコミュニケーションをとることを心掛けて接し、1日の様子を伝え気になることがあれば相談し、改善できるように取り組んだ。 ・火災や地震の避難訓練を通して、子ども達の命を第一に行動ができるように考えながら訓練に参加することができた。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼稚園としての役割	全園児を全教職員で把握し、対応できるようにする。 研修報告の時間を確保する。 子ども達が豊かな体験を通して、好奇心・思考力・表現力の基礎を養っていくこと、また様々な経験をしたことで自信を身に着けることや、保育者の肯定的な支えにより、行動力をつけることに繋げていきたい。
保育者としての資質向上	教育理念を意識しながら、園の持っている温かさや保育観を大切にして、職員同士や保護者との連携に努める。 積極的に研修に参加し、互いの力を十分に出し合える職場を目指す。 保育計画を手立てに、先を見通して保育準備を促し、目標・目的を明確に持ち保育を進めていく。
子育て支援・園児募集	小学校や警察署、消防署との連携をさらに強化し、地域との連携を深める。 ICTを活用した発信とあらゆる保育内容を工夫して、少子化でも選ばれる園になりたい。未就園児活動に参加した親子が、園児と交流を持てる場面を増やし、オープンな雰囲気大切にしていきたい
特別支援教育	発達を促す関わりを大切に、集団活動と個別支援を適宜組み合わせながら子どもの良さを伸ばしていきたい。 特別支援担当職員を中心に支援計画を職員全体で考えていけるように取り組む。多方面の保育者が関わることによって新たな気付きや支援の方法にいて対策ができるので、職員全体で子どもと関わることを徹底して取り組んでいく。

5. 学校関係者評価委員会の評価

保護者と先生の距離が近く、いつも先生が声をかけてくれて子どもの様子を知らせてくれるので安心して子どもをあずけることができます。

幼稚園の行事を通して、子ども達の成長を感じることができました。

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和 7年 3月 27日

